

松阪市小学校及び中学校の外国語教育の推進について

- ◎世界とつながる力を育むグローバル教育を推進し、子どもたちに異文化理解・自文化理解、コミュニケーション能力・自己表現力を培う。
- ◎新学習指導要領を踏まえ、外国語活動・外国語教育の改善・充実を図る。

1 【外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方】

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること。

2 【小学校外国語教育（外国語活動・外国語科）の目標】

〈外国語活動〉

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。

- (1) 言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。
- (2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
- (3) 言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

〈外国語科〉

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や文字、語彙、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推進しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
- (3) 外国語の文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

3【小学校における授業づくりの留意点】

〈外国語活動〉

- (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通し、具体的な課題等を設定して児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
- (2) 実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、英語の特徴に関する事項について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行う。また、英語を初めて学習することに配慮し、簡単な語句や基本的な表現を用いながら、友だちとの関わりを大切にしたい体験的な言語活動を行う。
- (3) 言語活動で扱う教材は、児童の興味・関心に合ったものとし、国語科や音楽科、図画工作科など、他教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をする。
- (4) 外国語や外国の文化のみならず、国語や我が国の文化についても併せて理解を深めるようにする。言語活動で扱う題材についても、我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つものとする。
- (5) 児童の発達の段階を考慮した表現を用い、児童にとって身近なコミュニケーションの場面を設定する。
- (6) 文字については、児童の学習負担に配慮し、音声によるコミュニケーションを補助するものとして扱う。
- (7) 言葉によらないコミュニケーションの手段もコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、ジェスチャーなどを取り上げ、その役割を理解させるようにする。
- (8) 身近で簡単な事柄について、友達に質問をしたり質問に答えたりする力を育成するため、ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態を工夫する。

〈外国語科〉

- (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通し、具体的な課題等を設定して児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
- (2) 実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、英語の特徴に関する事項について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行う。また、第3学年及び第4学年で扱った、簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図る。
- (3) 言語活動で扱う教材は、児童の興味・関心に合ったものとし、国語科や音楽科、図画工作科など、他教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をする。
- (4) 言語材料については、児童の発達の段階に応じて、聞いたり読んだりすることを

通して意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現すべき事項があることに留意する。

- (5) 音声指導については、日本語との違いに留意しながら、発音練習などを通して、現代の標準的な発音や、語と語の連結、強勢、イントネーション等を指導する。また、音声と文字とを関連付けて指導する。
- (6) 文や文構造の指導については、児童が日本語と英語等の語順等の違いや、関連のある文や文構造のまとまりを認識できるように工夫する。また、文法の用語や用法の指導に偏ることがないように配慮し、言語活動と効果的に関連付ける。
- (7) 身近で簡単な事柄について、友だちに質問をしたり質問に答えたりする力を育成するため、ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態を工夫する。
- (8) 教材については、次の事項に留意する。
 - ① コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を総合的に育成するため、五つの領域別の目標と内容との関係について、単元など内容や時間のまとまりごとに各教材の中で明確に示し、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮した題材を取り上げる。
 - ② 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などに関するものの中から、児童の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げる。
 - ア 多様な考え方に対する理解を深め、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと
 - イ 我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと
 - ウ 広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと

4 【中学校外国語教育の目標】

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

- (1) 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し、コミュニケーション（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）において活用できる。
- (2) 簡単な情報や考えなどを理解し、表現したり伝え合ったりすることができる。
- (3) 外国の文化に対する理解を深め、主体的に外国語を用い、相手に配慮しながらコミュニケーションを図ることができる。

5 【中学校における授業づくりの留意点】

- (1) 単元などの内容や、時間のまとまりを見通し、具体的な課題等を設定して生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
- (2) 小学校第3学年から第6学年までに扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図る。
- (3) 授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。
- (4) 言語活動で扱う教材は、国語科や理科、音楽科など、他の教科等で学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりする。
- (5) 言語材料については、生徒の発達の段階に応じて、聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現すべき事項があることに留意する。
- (6) 音声指導については、日本語との違いに留意しながら、発音練習などを通して、現代の標準的な発音や、語と語の連結、強勢、イントネーション等を指導する。
また、音声指導の補助として、必要に応じて発音表記を用いて指導することもできることに留意するとともに、音声と綴りとを関連付けて指導する。
- (7) 文法事項の指導については、英語の特質を理解させるために、関連ある文法事項はまとめて整理して指導する。
- (8) 文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、コミュニケーションの目的を達成する上での文法の必要性や有用性を実感させ、知識を活用したり、繰り返し使用させたりすることで文法事項の規則性や構造などについての気づきを促す。
- (9) 用語や用法の区別などの指導が中心とならないように配慮し、実際に活用できるようにするとともに、語順や修飾関係などにおける日本語との違いに留意して指導する。
- (10) 身近な事柄について、友だちに質問をしたり質問に答えたりする力を育成するため、ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態を工夫する。
- (11) コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定するとともに、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示し、生徒が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにする。
- (12) 教材については次の事項に留意する。
 - ① コミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成するため、五つの領域別の目標と内容との関係について、単元など内容や時間のまとまりごとに各教材の中で明確に示し、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮した題材を取り上げる。
 - ② 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の

段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げる。

- ア 多様な考え方に対する理解を深め、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと
- イ 我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと
- ウ 広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと

6 【小中連携の推進】

小学校中学年の外国語活動において、「聞くこと」、「話すこと」を中心とした活動を通じて外国語に慣れ親しみ外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達の段階に応じて段階的に文字を「読むこと」、「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図ることを重視する。

また、中学校においては、学びの連続性を意識した指導を行い、語彙、表現などを異なる場面の中で繰り返し活用することによって、生徒が自分の考えなどを表現する力を高める。

7 【ICT の活用】

児童生徒が身に付けるべき資質・能力や児童生徒の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、児童生徒の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図る。